

ルビー・オクヤマ

登録番号：第519号

育成者：奥山孝太郎

登録年月日：昭和59年3月19日

来歴：「イタリア」の枝変わり

登録者：奥山フミ子（ブラジル国パラナ州サンタ・マリアナ市モレイラ街479）

特性

■栽培特性

ヨーロッパ系統の高級品種「イタリア」の枝変わりで、諸特性は「イタリア」に類似しているが、果皮が美しく着色し、紫赤色で、黄白色の「イタリア」と異なる。果粒は軽いマスカット香を有しており、大粒の高級品種である。試作地、山梨県山梨市において9月中～下旬に成熟する中生の品種で、裂果性は中程度であるが、年により、特に栽培方法によって激しく裂果する。この品種の栽培に当たって最も注意を要する点である。

樹勢は中～強で、枝梢は太く、枝梢の登熟は比較的良好である。早春の萌芽、新梢の伸長は良好で、葉は五角形をしており、3片ないし5片葉で、葉柄裂刻および上裂刻は重なり、上裂刻の深さは中位で、葉脈間と葉柄には僅かに毛じを有している。葉の大きさは中程度であり、葉柄の長さはやや短い。花穂は小副穂型で、花柱および雄蕊は健全で、完全花である。花房の形は円錐形で、非常に大きい。花振り性および単為結果性は少なく、結実は良好、粒着は中～やや密である。裂果性は中程度であるが、年によって激しく裂果する。脱粒性はなく、輸送性および貯蔵性は良好である。

この品種の栽培に当たって最も注意しなければならないことは果実の後期肥大期から成熟期にいたる過程における果粒の裂果であり、また、結果過多等による果粒の着色不良である。一般的露地栽培に当たっては、この品種が花振りが少ないことから冬期はやや強めのせん定を行ない、早春新葉が3～5葉展葉した頃、芽掻きを行なう。果房は副穂を除去し、岐肩を落として整形する。摘粒は早めに行ない1果房40～50粒程度とし、300～500gの果房に導く。摘房も花振りが少ないので早めに行ない、1新梢1果房とし、1㎡当たり4～5房を目標とし、10a当たりの収量を1.5～2.0t以内に調節して結果過多による着色不良を防止する。

生理的裂果を防止するためには十分、葉数を確保することが必要である。したがって10a当たり1.5～2.0tの収量を必要とする場合1㎡当たりの結果枝数は果房数と同様に4～5本であるが、本品種は裂果が激しいため空枝数を増加して、枝数を約2倍とし、葉面積の確保に努める。この空枝は裂果防止のためであり、けっして着房してはならない。

■果房の特性

果房は整形により円筒または円錐形で、大房、粒着の密度は中で、外観は極めて美しい。果粒は楕円ないし短楕円で、非常に大、果皮は薄く、紫赤色、果粉の量は中位、果肉との分離は難。果肉は黄緑色、崩壊性、果汁量は中、甘味は中、酸味は少でマスカット香を有す。

■病虫害抵抗性

「ネオマスカット」とほぼ同程度、早生甲斐路群に準じて防除すればよい。

■地域適応性

花振り性が少なく栽培は容易で、「ネオマスカット」の適応地域には適する品種であるが、裂果が多いため、その対策が十分に行なわれるかどうか経済栽培を左右する。

(吉田賢児)